

広島神楽

定期公演 へようこそ

本日はご来場いただき、まことにありがとうございます。
当公演では、全てのお客様に気持ちよく神楽を鑑賞していただくため、下記のルールを設けています。

- ご理解、ご協力をよろしくお願い申し上げます。
- (1) 座席での**飲食は出来ません**。ロビーをご利用下さい。
 - (2) 上演中の立ち歩きや大声での私語など**他のお客様のご迷惑になる行為**はご遠慮下さい。
 - (3) お子様連れの方は、お子様が舞台の前に出られると、演出等で**危険な場合**がございます。**着席**での鑑賞をお願いします。
 - (4) 撮影について
→写真撮影は右図の**撮影エリア**で行って下さい。
※**ビデオカメラでの動画撮影、フラッシュの使用は禁止**します。
(マスコミ関係など主催者の許可を得ている場合を除く)
- 以上です。どうぞ、最後までごゆっくりお楽しみ下さい。

撮影エリアについてのご案内

写真撮影をご希望の方は必ず、下記の撮影エリアをお願いいたします。

撮影エリア

フラッシュを使用している撮影、三脚を使用している撮影、撮影された画像の営利目的での複製および何らかの動画公開は禁止させていただきます

スマホや携帯で撮った動画や写真をSNSにどんどんアップして

広島神楽の魅力を発信してください!!

10月16日のタイムスケジュール
出演: 苅屋形神楽団(北広島町)
19:00～開演
19:05～第一幕『塵輪』
(およそ40分)
～幕間(休憩)～
20:00～第二幕『鍾馗』
(およそ40分)
20:45～記念撮影会

衣装やお面を実際に見ていただき、記念撮影をしていただけます。携帯電話での撮影も大歓迎です。本日の記念に是非ご参加下さい。また、神楽団との交流もしていただけます。疑問に思ったことなど、直接団員にお聞きください。(舞台へは靴を脱いでお上がりください。)

※記載の時間は目安です。多少前後する場合がございますので、あらかじめご了承ください。

かりやかたかぐらだん

苅屋形神楽団プロフィール ～北広島町～

苅屋形神楽団は広島県の北西部・北広島町の芸北地区に明治10年頃創設されました。舞の形式は石見神楽邑智系を原型とした優雅で重厚な六調子舞が独自に変化し発展したものです。現在団員は22名で、先人の遺産である旧来からの儀式舞・能舞の習得に日々精進し、技術の上達はもとより、神楽人としての精神修養にも努めています。

第一幕『塵輪』 じんりん

人皇・第14代仲哀(ちゅうあい)天皇の御代、異国より日本征伐を企てて数万の軍勢が攻めてきました。

その中に塵輪という身に翼があり、黒雲に乗って虚空を自由に飛び回る神通自在の大將軍がおり、国々村里を荒らし、多くの人民を滅ぼしていました。しかし、我が国にはこの大悪鬼にかなう者がいませんでした。

そこで仲哀天皇自ら不思議な霊力のある十善万乗(じゅうぜんばんじょう)の神変不測の弓矢を持って、神通力を持ち戦術にも長けた鬼を退治されたという物語です。

大	太	鼓	—	榎原	一	氣
小	太	鼓	—	河野	広	和
手	打	鉦	—	谷本	庸	子
		笛	—	藤田	佐	奈
帯	中	津	彦	命	—	佐田 貴
高			丸	—	榎原	和弘
塵			輪	—	酒井	拓也

第二幕『鍾馗』 しょうき

「鍾馗」は中国や日本に伝わる魔除けの神様です。

備後風土記には、みすぼらしい姿の武塔神(むとうしん)が一夜の宿を頼み、貧しいながらも温かくもてなした家族に「茅の輪(ちのわ)」を腰に巻くよう言い残し、村中に疫病が流行った際にその家族は助かったという伝説があります。

神楽の演目「鍾馗」はこの伝説などから創作された物語で、須佐之男命(すさのおのみこと)の化身が鍾馗大臣と名乗り、民の命を奪おうとする大疫神(だいえきしん=疫病の神)と戦います。

姿なき大疫神を左手に持つ茅の輪で捕らえ、右手の剣で見事退治します。

大	太	鼓	—	酒井	敏	治
小	太	鼓	—	榎原	和	弘
手	打	鉦	—	河野	和	夫
		笛	—	山崎	千	絵
鍾			馗	—	酒井	邦昭
疫			神	—	榎原	伸二